令和７年度 農作物病害虫	防除対策情報　第６号	令和７年７月11日 秋田県病害虫防除所

トマトキバガの誘殺数が多い

～食害を確認したら、直ちに薬剤防除してください～

１．現在までの発生状況と今後の発生予想

北秋田市、秋田市、大仙市の侵入調査におけるトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺数は、６月下旬に急増し、３地点の６月２半旬から７月１半旬までの総誘殺数は123頭（前年64頭）で前年より多く推移している（図－１、２、３）。

６月下旬以降、県中央部と県南部の４地点のトマト、ミニトマト栽培ほ場で葉の食害が確認されている。

以上のことから、今後、トマトキバガの幼虫による食害の増加が懸念されるため、以下の防除対策を行う。

２．防除対策

１）トマトやミニトマトの栽培施設では、開口部全てに防虫ネット（目合い0.8㎜以下）を設置し、本虫の施設内への侵入を防ぐ。

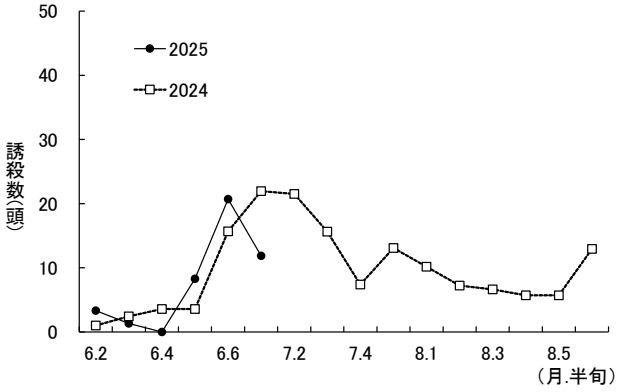
２）成虫は主に茎葉に産卵し、ふ化後、幼虫は茎葉及び果実内へ侵入するため、不要な葉やわき芽、幼果を除去する。

３）幼虫による食害痕（図－４）が無いかよく観察する。食害が確認された場合は、その部位を除去し、土中深く埋没するか、ビニル袋などに入れて密閉して本虫を死滅させた後、適切に処分する。

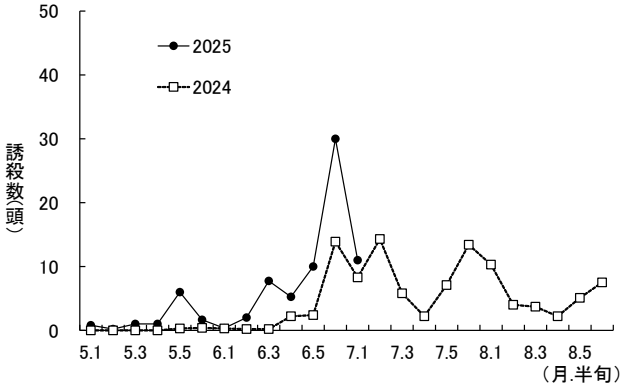
４）本虫は繁殖能力が高いため、発生が見られた場合は、直ちに薬剤の茎葉散布を行う（表－１）。

５）海外では薬剤抵抗性が発達した個体群の発生が報告されているため、同一ＲＡＣコードの農薬を連続して使用せずローテーション散布する。

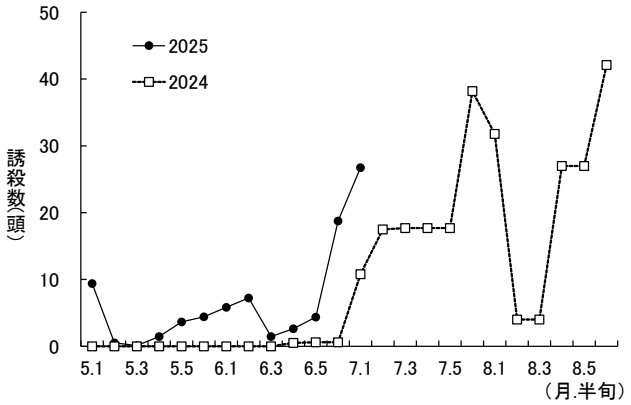
３．資料



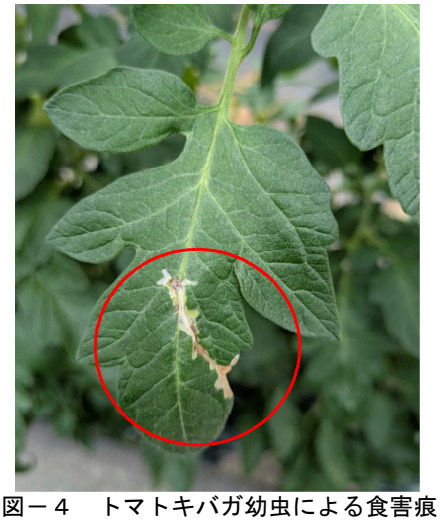
図－１　北秋田市のフェロモントラップにおける誘殺数の推移



図－２　秋田市のフェロモントラップにおける誘殺数の推移



図－３　大仙市のフェロモントラップにおける誘殺数の推移



図－４　トマトキバガ幼虫による食害痕

表－１　トマトキバガの防除薬剤

適用作物名		RAC コード	農薬名	希釈倍数	本剤の使用回数	使用時期
トマト	ミニトマト					
○		6	アグリメック	500～1,000倍	3回以内	収穫前日まで
○	○	6	アファーム乳剤	2,000倍	5回以内	
○	○	5	ディアナSC	2,500～5,000倍	2回以内	
○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	3回以内	
○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	2回以内	
○	○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	2回以内	
○	○	28	ベネビアOD	2,000倍	3回以内	
○	○	28	ヨーバルフロアブル	2,500倍	3回以内	
○		22A	トルネードエースDF	2,000倍	2回以内	
○	○	22B	アクセルフロアブル	1,000倍	3回以内	
○	○	UN	プレオフロアブル	1,000倍	2回以内	
○	○	11A	エスマルクDF	1,000倍	－	発生初期但し、収穫前日まで

【　問合せ先　】
秋田県病害虫防除所　℡ 018-881-3660
秋田県農業試験場　℡ 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/